

8009 道で男の子が転んで泣くと・・・

道で男の子が転んで泣くと、かつて、母親たちは言ったものである。

「何を泣くんです！ 男の子が泣いたりするものじゃありません！」

女の子が転んで泣いても母親は叱らない。なぜなら、女の子は弱く優しく、男は強く逞しくなるべきものと決められていたからである。

佐藤愛子『強者は弱し』

[許容訳例]

When a boy fell over in the road and cried, his mother used to say to him.

“What are you crying? A Boy shouldn’t cry!”

But a mother didn’t scold a girl even if she cried when she fell over, because a girl was supposed to be weak and gentle, while a boy was tough and sturdy.

[翻訳例]

In the old days, when a boy fell over in the street and started crying, his mother would say to him.

“What are you crying for? Boys don’t cry!”

But if a girl fell over, her mother didn’t scold her even if she cried, the reason being that girls were supposed to be weak and gentle, whereas boys were tough and strong.

■道で男の子が転んで泣くと、かつて、母親たちは言ったものである。(8009)

★「道で」は in the street が一番いいでしょう。これなら家の中ではなく outside だという意味になります。ついでながら、on the road は「路面」を強調する感じがしますし、in the road としても間違いではありませんが、これは「歩道」というより「車道」という感じが強くなります。

★「男の子」は、ここでは一般論なのですが、単数で a boy がいいでしょう。場面がすぐ想像できるからです。ある英文書きのベテランが、英文を書くときには言葉で絵を描くよう心がけようと学生に教えていました。ここで boys を使うと、たくさんの男の子たちがみんなそろって一度に転んでしまうような場面を想像してしまいます。微妙なのですが、たとえば、In the old days, when boys went to school, their mothers didn’t accompany them. は、複数でないと正しい場面は眼に浮かんできません。ここでは複数が必要です。

★「転ぶ」の fall には「倒れる、転ぶ」の他に「落ちる」という意味があります。違いをはっきりさせるために、ここでは fall over を使った方がいいと思います。

★「泣く」は cry でもいいのですが、これだけだと「涙を流す」という内容に重点を置いた感じになるので start crying にした方がいいでしょう。

★「かつて」は in the old days がいいでしょう。これには今は変わってきたけれど昔はそうではなかったという懐古的な感じがあります。置く位置は先頭がいいでしょう。

★「母親たちは・・・」と複数になっていますが、これは一般論として言ったのでしょうかが、

英語では「男の子」を代表単数(a boy)にしたのですから「母親」は a mother か his mother です。

◆used to と would

★ 「言ったものである」は used to say[exclaim]でもいいですが、 used to は自分が直接経験したことを見出するような場合、たとえば、「お父さんがお前と同じ年頃のころにはよく…したのだ」というような場合が多いですからファミリアな感じがします。この場合は、ただの過去時制(said; exclaimed)も使えますが、主観的一般論として would say[exclaim]を使うとかえって堅い感じに聞こえていいでしょう。なお、would には often がよく付きますが、入れると「言わぬ場合もあった」という含みが入ります。ここではあえてそのような場合を強調する必要はありません。

● この文は三つの {単位情報} を「A [して] B する [と], C した」と連結したものです。A [して] B は「順次」ですから and で結びます。[と] は「瞬時同時」ですから when です。ですから When A and B, C となります。

■ 「何を泣くんです！」(8009)

★ 「何を泣くんです！」は Why are you crying?でもいいのですが、これは素直に理由を尋ねているだけで、言う人の感情がこもっていないません。ここは What are you crying for?が場面に合った自然な英語です。この言い方には怒るとか憤慨するとかあきれるとかという気持ちがこもります。「泣く必要ないんじゃないか、馬鹿じゃないか」という感じです。他に What are you crying about?も同じように使えます。

■ 「男の子が泣いたりするものじゃありません！」(8009)

★そのまま文字通り訳すと A boy[Boys] shouldn't cry.あるいは Boys aren't supposed to cry. (男の子は泣かないことになっている)という表現にしてもいいのですが、この文の発言意図を斟酌して訳すと、一番簡単で意味が十分に出るのは現在時制の基本的な使い方(通時)で Boys don't cry. (一般に男の子というものは泣かないものだ)です。助動詞を使うといろいろな要素が入ってしまいます。たとえば、mustn't は道徳的なニュアンスを含んだ主観的「禁止」ですし、shouldn't は「常識的に見ていいことではないから本来はしない方がよい」という主観が入ります。

■ 女の子が転んで泣いても母親は叱らない。(8009)

★ 「叱らない」となっていますが、「かつて」という過去のことを言っているので、英語では「叱らなかった」(didn't scold)となります。

● [で] (瞬時同時) と [ても]

この文は連結辞の [で] と [ても] (even if)が曲者です。「転ん [で] 泣く」の [で] を「順次」と解釈して「女の子が転んで泣いても」(even if a girl fell over and cried)と訳すと、even if は fell over と cried の両方に懸かってしまいます。しかし、叱る対象は cried だけで、転んだことまで言っているわけではないので、この [で] は [とき] (瞬時同時) として使われていると解釈すべきです。したがって、even if a girl cried when she fell over…とする

か、あるいは if[when] a girl fell over, her mother didn't scold her even if she cried とするか、女の子の場合を強調するなら with a girl, her mother didn't scold her even if she cried when she fell over. です。なお、日本語の表現を無視して、この状況を英語で表現すると、A girl, though, could cry when she fell over without being scolded by her mother. とすることもできます。

■なぜなら、女の子は弱く優しく、男は強く逞しくなるべきものと決められていたからである。(8009)

★「なぜなら」は because を使ってもいいですが、もっと「なぜなら」を強調するのによく使う表現は the reason is that…です。これを分詞構文にして the reason being that…を使うこともできます。

★「弱〔く〕優し〔く〕」は be weak and gentle でしょう。

★「強〔く〕逞し〔く〕」を be strong and sturdy とすると、日本語の発言意図を十分に表すことにはなりません。この「強〔く〕」は、肉体的に強い(strong)のではなく、精神的に強い、つまり、「どんなことに対しても弱音を吐かない」という意味ですから tough がぴったりです。「逞し〔く〕」は肉体的なことなので、sturdy あるいは strong でいいと思います。

●「(一方は)・・・〔く〕なり、(一方は)・・・〔く〕なる」

ここでの連結辞〔く〕は「なるべきもの」に続くのですが、「(一方は)・・・〔く〕なり、(一方は)・・・〔く〕なる (べきもの)」という内容を伝えていますから while か whereas を使うことになります。

◆be to be…

「なるべきものと決められていたからである」は were supposed to か、あるいは should be です。なお、were to be は駄目です。不定詞というのは、基準になる時点から後のことを見るのが基本ですから、were to be…は、やはり、その時点から考えて将来になることを言うことになります。たとえば、(He did this and this, then) later he was to be prime minister. (あとで、総理大臣になることになった) という場合でも、You are to (=should) hand in the exercises next Monday. (命令) の場合でも、根本的には「そのことはまだ起こっていないけれどもう決まっている」ということになります。たとえば、文法書で can の意味としてよく例に使われる It was quiet in the street and not a soul was to be seen. も同じで、かりに言い換えてみると、It was quiet in the street and not a soul was there so that if you look you could not see him. ですし、Many bargains are to be found in that shop. も、言い換えれば、There are many things in that shop and if you go there they can readily be found[seen]. で、やはり、今より先のことです。

